

黒毛和種去勢牛の育成期における 牧草サイレージ給与技術

牧草サイレージ (GS) は、一般に乾草より栄養価が高く、その利用が期待されていますが、黒毛和種の育成においては、GS 給与による軟便に伴う発育の低下、体型の悪化および肥育時のビタミン A コントロールに対する悪影響などが懸念されています。そこで、北海道立総合研究機構畜産試験場では、これらの懸念を払拭し、給与開始時期や適切な蛋白質水準を明らかにすることにより、育成期における牧草サイレージの給与技術を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 切断乾草を給与する乾草区、4 か月齢から牧草サイレージを給与する GS4 区および5 か月齢から牧草サイレージを給与する GS5 区の試験区を設け、各試験区 6 頭の黒毛和種去勢牛を供試して飼養試験を行いました。育成期の乾物摂取量、給与開始時期の違いによる増体、腹部形状および血中ビタミン A 濃度および肥育成績に差がみられず、枝肉脂肪の黄色化は生じなかったことから、GS の給与は 4 か月齢から可能と考えられました。
2. 乾草と蛋白質含量 18%濃厚飼料を給与する乾草区と牧草サイレージと蛋白質含量 16%濃厚飼料を給与する GS 区の試験区を設け、各試験区 8 頭の黒毛和種去勢牛を供試して飼養試験を行いました。育成期の増体、腹部形状および血中ビタミン A 濃度および肥育成績に差がみられず、枝肉脂肪の黄色化は生じなかったことから、併給濃厚飼料の蛋白質含量を 18 から 16%に削減することが可能と考えられ、本試験での飼料費は 16%の削減となりました。
3. 乳肉複合経営の黒毛和種農家における現地実証では、GS を給与した牛の子牛市場価格は市場平均を上回り、GS 給与による負の影響はみられませんでした。



写真1 牧草サイレージ
給与

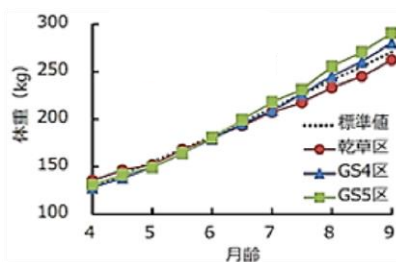


図1 牧草サイレージ給与の枝肉

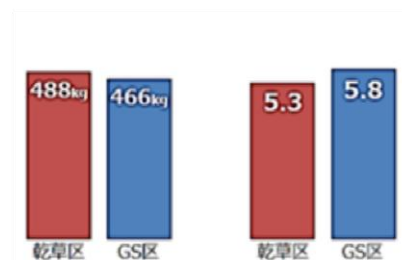


図2 枝肉重量

図3 BMS No.

☆ 活用面での留意点

本成績は、肥育を濃厚飼料多給の慣行法で行い、高水分牧草サイレージを給与した結果ですが、低水分・中水分牧草サイレージにも活用できます。詳しくは、北海道立総合研究機構畜産試験場家畜研究部・肉牛 G 遠藤哲代 (TEL : 0156-64-0610) に問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)